

施策14

快適な生活環境の維持と循環型社会の構築

(全 18 事務事業)

## 施策14. 快適な生活環境の維持と循環型社会の構築

### ● 施策評価表

### ● 事務事業評価表

掲載開始  
ページ

1. 北筑昇華苑葬祭業使用料助成事業	(健康課)	1
2. 桜丘下水道処理施設跡地管理事業	(生活安全課)	3
3. 動物愛護事業	(生活安全課)	5
4. 環境調査事業	(生活安全課)	7
5. 町内清掃事業	(生活安全課)	9
6. 生活環境監視事業	(生活安全課)	11
7. 焼却場跡地周辺環境整備事業	(生活安全課)	13
8. 空き地等草刈り事業	(生活安全課)	15
9. 宇美町・志免町衛生施設組合運営事業	(生活安全課)	17
10. ごみ処理事業	(生活安全課)	19
11. ごみ減量化推進事業	(生活安全課)	21
12. 資源回収推進事業	(生活安全課)	23
13. 地球温暖化対策事業	(生活安全課)	25
14. 緑化推進事業	(都市整備課)	27
15. 片峰山緑地保存事業	(都市整備課)	29
16. 緑地保全会支援事業	(都市整備課)	31
17. 河川美化活動団体支援事業	(都市整備課)	33
18. 森林環境譲与税活用事業	(都市整備課)	35
19.		37
20.		39

施策評価表（事業実施年度:令和 06 年度）			前期基本計画期間 <<令和3年度～7年度>>	
体 総 合 計 系 画	基本目標	5. 環境にやさしく快適に暮らせるまち	施策統括課	生活安全課
	施策	14. 快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	関 係 課	都市整備課

### 1. 施策の成果指標の達成度

成果指標 (関連する町の取り組むべきこと)	単位	基準値 目標の方向性	R6目標値 R6実績値	実績値の年次推移	判定
町の環境衛生について、 特に気になることがない町民の割合	%	28.4	34.8		a
14-1		↑	36.2		
町民一人1日当たりのごみ (燃やせるごみ)の排出量	g (グラム)	626	626		a
14-2		→	598		
1年間の資源回収量	t (トン)	822	822		C
14-3		→	495		
自然環境保護活動を行っている 町民の割合	%	10.4	10.4		C
14-4		→	8.8		

達成度:a…目標を達成している、b…目標をわずかに達成していない、c…目標を達成していない

### 2. 町が取り組むべきことの実施状況と方向性

14-1 マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する 町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 美化活動の促進とペットの飼い主へのマナー啓発 31 位 / 53 位	所管課 生活安全課
---	--------------

町が取り組むべきこと	①生活環境被害を軽減させるため、野良猫への無責任な餌やりに対して適切に指導するとともに、地域猫活動支援事業による不妊去勢手術を実施するなどの取組を推進します。 ②町内一斉清掃により、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させます。 ③環境監視員を効果的に活用し、不法投棄、野焼き、ペットの糞害などの生活環境に関する問題に対する啓発や指導を行います。
主な取り組み状況	・地域猫活動を実施する住民への負担軽減を図るため、地域猫活動支援事業実施要綱の改正(ワクチン接種・ウイルス検査費用の補助を追加、個人での申請を可とする)により支援の拡充を行い、活動しやすい環境づくりを行った。
課題	・不妊去勢手術をせずに野良猫へ餌やりをする人が後を絶たず、繁殖の要因となっている。
R8年度取り組み方針	・自己中心的な餌やりについては、粘り強く指導及び助言を行い、地域猫活動への移行を促す。 ・周辺住民に地域猫活動への理解を深めてもらうため、活動者による近隣への周知啓発を指導する。 ・自衛による糞尿被害の軽減を図るため、『猫よけセンサー』の貸出を行う。
町が取り組むべきことの達成状況	
<input checked="" type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どりの成果をあげている <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない	

構成する事務事業(評価対象事業のみ)									
番号	事務事業名		事務事業評価(転記)					施策評価	
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R5 決算	R6 決算	R7 予算			
1	北筑昇華苑葬祭場使用料助成事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	町民の北筑昇華苑の使用にかかる経済的な負担を軽減するため、使用料金の一部を負担する。		一般財源	8,173	9,747	9,209	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	8,173	9,747	9,209			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
健康課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.02	0.10	0.12			
2	桜丘下水処理施設跡地管理事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	桜丘下水処理施設跡地が適切に管理されるよう、維持管理を行う。		一般財源	1,500	1,170	1,532	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	1,500	1,170	1,532			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.11	0.09	0.09			
3	動物愛護事業		特定財源	2,658	3,775	3,670	D	○	D
	飼い犬や地域猫による生活環境への被害が起こらないよう、狂犬病の発生予防や地域猫活動への支援の取組を行う。		一般財源	0	-360	0	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	2,658	3,415	3,670			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.81	0.84	0.73			
4	環境調査事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	対象調査箇所の汚染状況等が確認されるよう、水質調査等を行う。		一般財源	1,081	1,259	1,328	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	1,081	1,259	1,328			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.10	0.13	0.14			
5	町内清掃事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	町民自らの手によってきれいな街にする意識向上を図るため、春と秋の年2回、町内一斉清掃を行う。		一般財源	2,987	3,145	4,018	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	2,987	3,145	4,018			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.47	0.59	0.52			
6	生活環境監視事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	町民がごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守るよう、監視、指導及び啓発を行う。		一般財源	3,454	4,773	5,008	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	3,454	4,773	5,008			
			(内 会計年度任用職員人件費)	(3,454)	(4,773)	(5,008)			
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.24	0.24	0.27			
7	焼却場跡地周辺環境整備事業		特定財源	1,116	1,132	1,548	D	—	D
	焼却場跡地周辺町内会の環境整備が行われるよう、志免町焼却場跡地整備委員会で承認された周辺地域の環境整備を推進するための取組を行う。		一般財源	0	-4	0	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	1,116	1,128	1,548			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.02	0.02	0.03			
8	空き地等草刈事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	空き地等の雑草、木の繁茂による苦情があった土地が適正に管理されるよう、条例に基づいて土地所有者又は管理者に適性に管理するよう依頼を行う。		一般財源	0	0	0	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	0	0	0			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.20	0.20	0.32			
9	緑化推進事業		特定財源	0	0	0	D	—	D
	公園や公共施設以外に植栽された桜の維持管理等を行う。		一般財源	9,255	10,049	10,563	成果・費用とも維持		成果・費用とも維持
			合計	9,255	10,049	10,563			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
都市整備課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.31	0.05	0.05			
町が取り組むべきことを構成する事業の方向性									
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし							
	拡充事業の方向性や内容	なし							
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし							
	縮小事業の方向性や内容	なし							
R8年度の町が取り組むべきことの方向性			<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持						

14-2 ごみを適切に収集して処理する	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) ごみを適切に収集して処理する体制の確保 7 位 / 1 位	生活安全課

町が取り組むべきこと	①ごみの出し方や分別の仕方などが徹底されるよう、広報誌や町のホームページなどを利用して啓発します。 ②家庭や事業所から出るごみを収集、運搬する方法や選別、処理する施設などのごみを適切に処理する体制を安定的かつ継続的に確保します。
主な取り組み状況	・家庭及び事業所から出る一般廃棄物を町内許可業者により収集し、可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに、不燃ごみは宇美・志免リサイクルセンターにそれぞれ搬入、安定的・継続的に処理を行った。
課題	・ごみの不分別により回収がされず、集積所にそのまま残っていることがある。 ・事業系一般廃棄物用のごみ袋に、産業廃棄物が混入していることがある。
R8年度取り組み方針	・ごみアプリの導入促進や、ごみ分別辞典のさらなる充実により、ごみを正しく排出してもらい、スムーズな収集運搬につなげる。また、事業所に対してごみの適正な排出を促進させる。

町が取り組むべきことの達成状況

- ☒ 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どりの成果をあげている  
☐ 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない  
☐ 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

構成する事務事業(評価対象事業のみ)

番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価	
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度
	担当課	会計区分		R5 決算	R6 決算	R7 予算		
1	宇美町・志免町衛生施設組合運営事業		特定財源	0	0	0	D	D
			一般財源	197,157	181,213	198,207	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	「宇美・志免浄化センター」と「宇美・志免リサイクルセンター」を宇美町と共同で運営する。		合計	197,157	181,213	198,207		
			(内 会計年度任用職員人件費)					
2	生活安全課	一般会計	関与 正職員数(人)	0.26	0.34	0.26	D	D
	ごみ処理事業		特定財源	163,651	163,003	166,072	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
			一般財源	680,338	652,376	788,919		
	町内から出る可燃ごみを適切に収集、運搬、処理する。		合計	843,989	815,379	954,991		
			(内 会計年度任用職員人件費)	(2,294)	(3,181)	(3,200)	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	生活安全課	一般会計	関与 正職員数(人)	1.00	1.33	1.42		

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性

ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	なし
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし
R8年度の町が取り組むべきことの方向性		<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持

14-3 地球温暖化防止と資源の有効利用を進める	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 地球温暖化対策と資源の有効活用 36 位 / 25 位	生活安全課

町が取り組むべきこと	①「地球温暖化対策推進法」に基づいた、温室効果ガス排出量削減のため、地球温暖化対策を行います。 ②「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づいた、ごみ減量のため、食品ロスの削減対策を行います。 ③ごみの減量化と資源化を推進するため、4R活動を推進します。
主な取り組み状況	・日常生活における脱炭素行動のきっかけづくりを応援するため、ECOチャレンジ応援事業に参画した。
課題	・地球温暖化問題は住民や事業所が自分事として感じにくく、また、省エネ化や再生可能エネルギー導入にはコストがかかるため、脱炭素に資する行動変容を起こしにくい。
R8年度取り組み方針	・引き続きECOチャレンジ応援事業に参画し、住民の行動変容を促進する。 ・町のイベントなどで様々な企業や自治体と協力して、マイボトルの利用促進など脱炭素を広く住民にPRする。

町が取り組むべきことの達成状況

- ☐ 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている  
☒ 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない  
☐ 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

構成する事務事業(評価対象事業のみ)

番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価	
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度
	担当課	会計区分		R5 決算	R6 決算	R7 予算		
1	ごみ減量化推進事業		特定財源	0	0	366	D	D
			一般財源	786	816	818	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
			合計	786	816	1,184		
			(内 会計年度任用職員人件費)					
2	資源回収推進事業		特定財源	0	0	0	D	D
			一般財源	3,345	3,112	7,950	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
			合計	3,345	3,112	7,950		
			(内 会計年度任用職員人件費)					
3	地球温暖化対策事業		特定財源	7,148	833	25,117	A	A
			一般財源	0	1,665	2,280	成果拡充・費用拡大	◎
			合計	7,148	2,497	27,397		
			(内 会計年度任用職員人件費)					
	2050年カーボンニュートラルに向けた取組、施策を行う。		特定財源	7,148	833	25,117	成果拡充・費用拡大	◎
			一般財源	0	1,665	2,280		
	生活安全課		一般会計	0.39	0.54	0.60	成果・費用とも維持	-
			関与 正職員数(人)	0.36	0.12	0.14		
	ごみ減量化推進事業		特定財源	7,148	833	25,117	成果拡充・費用拡大	◎
			一般財源	0	1,665	2,280		
	生活安全課		一般会計	0.39	0.54	0.60	成果・費用とも維持	-
			関与 正職員数(人)	0.36	0.12	0.14		
	地球温暖化対策事業		特定財源	7,148	833	25,117	成果拡充・費用拡大	◎
			一般財源	0	1,665	2,280		
	生活安全課		一般会計	0.39	0.54	0.60	成果・費用とも維持	-
			関与 正職員数(人)	0.36	0.12	0.14		

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性

ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	【地球温暖化対策事業】 マイボトルの利用およびプラスチックごみの削減をさらに促進するため、志免町オリジナルのマイボトルを作製し、窓口販売や各種イベントでの配布などを行う。
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし

R8年度の町が取り組むべきことの方向性

- ☐ 最優先  
☐ 優先  
☒ 維持

14-4 貴重な自然環境を守る	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 自然環境の保護と自然環境保護活動の促進 34 位 / 38 位	都市整備課

町が取り組むべきこと	①町内の貴重な緑地を守るため、まとまった緑地を緑地保全林地区に指定します。 ②良好な環境の保護と町民の自然を大切にする意識を高めるため、町民の自然環境保護活動への参加を促進します。
主な取り組み状況	・緑地の保全、自然環境の保護活動について支援を行った。
課題	・緑地保全林地区として指定出来ていない私有地がある。
R8年度取り組み方針	・引き続き、緑地や自然環境が維持改善出来るように支援を行う。

町が取り組むべきことの達成状況

- ☐ 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている  
☒ 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない  
☐ 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

構成する事務事業(評価対象事業のみ)

番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価	
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度 施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R5 決算	R6 決算	R7 予算		
1	片峰山緑地保存事業		特定財源	0	0	0	D	D
			一般財源	864	878	924		
	緑地保全林地区対象地の緑地が保全されるよう、緑地保全林地区に指定して、緑地の保全と緑化の推進に要する費用の一部を助成する。		合計	864	878	924	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	都市整備課	一般会計	(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.30	0.06	0.16		
2	緑地保全会支援事業		特定財源	0	0	0	D	D
			一般財源	825	825	825		
	緑地保全会が管理する緑地の保全が行いやすくなるよう、緑地の保全のための費用の一部を補助する。		合計	825	825	825	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	都市整備課	一般会計	(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.12	0.05	0.15		
3	河川美化活動団体支援事業		特定財源	0	0	0	D	D
			一般財源	50	0	52		
	河川美化活動団体(クリーンupうみ川実行委員会)が活発に活動できるよう、宇美川河川周辺の美化活動に対して、補助金交付等の支援を行う。		合計	50	0	52	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	都市整備課	一般会計	(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.01	0.15	0.15		
4	森林環境譲与税活用事業		特定財源	0	1,558	2,200	D	D
			一般財源	2	2	7		
	木材の利用促進を図るため、木製品の導入又は公共建築物の木造化等により、志免町森林環境譲与税活用計画に基づいた地域木材の積極的活用を行う。		合計	2	1,560	2,207	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持
	都市整備課	一般会計	(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.33	0.17	0.23		

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性

ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	なし
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし

R8年度の町が取り組むべきことの方向性

- ☐ 最優先  
☐ 優先  
☒ 維持

### 3. 施策の総括と今後の展開

成果指標の『町の環境衛生について、特に気になることがない町民の割合』および『町民一人1日当たりのごみ(燃やせるごみ)の排出量』は目標を達成した。今後も、マナー啓発や美化活動により美しいまちの維持と、ごみを適切に収集し処理するため、関係施策を継続的に展開していく。

また、『1年間の資源回収量』と『自然環境保護活動を行っている町民の割合』については、目標を達成できなかった。そのため、地球温暖化対策と資源の有効利用をさらに推進し、貴重な自然環境保全に向けて、関係施策を拡充し、取り組んでいく。

さらに、緑地保全事業や河川美化活動の支援事業に取り組み、自然環境の維持及び保全を図り、緑地保全林地区の未指定の土地を指定することにより成果が向上するため、引き続き土地所有者と指定に向けて協議を行う。

### 4. 施策の進行状況

- ☐ 目標に向かって順調に進んでいる
- ☒ 目標に向かってある程度順調に進んでいる
- ☐ 目標に向かってあまり進んでいない
- ☐ 目標に向かって進んでいない



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報 ☐ 06年度 実施計画事業

☐ 総合戦略該当事業

事務事業コード 1014101

事務事業名		北筑昇華苑葬祭場使用料助成事業		担当課	健康課	担当係	健康づくり係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
					項	01	保健衛生費
					目	01	保健衛生総務費
	根拠法令条例等		北筑昇華苑組合規約及び葬祭場使用料の一部負担に関する規程		個別計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 56 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,342
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・葬祭場の使用にかかる経済的な負担が軽減される				
		3市7町(福岡市、福津市、古賀市、糟屋郡7町)の組合で創設した葬祭場(北筑昇華苑)の使用料金の一部を負担する(大人[10歳以上]40,000円、小人[10歳未満]20,000円、死産児6,000円のうち、その半額を町が負担) ・報告使用料町負担分の支払い(月ごとに納入)				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動					

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア 活動	町負担分支払い回数	↑	回	目標 12	12	12	100.0%
				実績 12	12		
イ 成果	助成件数	↑	件	目標 400	400	440	118.0%
				実績 410	472		
ウ				目標			
				実績			
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります			05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	8,173	8,609	9,747	9,209	
		合計(A)	8,173	8,609	9,747	9,209	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		148	788	784	1,045	
	トータルコスト(A) + (B)		8,321	9,397	10,531	10,254	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.02	0.10	0.10	0.12	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ	②事務事業を取り巻く環境の変化	③事務事業に対する関係者からの意見・要望
昭和45年頃、住民の葬祭場として3市7町(福岡市、福津市、古賀市、糟屋郡)で北筑衛生施設組合を設立し古賀葬祭場を建設。住民の葬祭場使用の負担を軽減するために使用料の一部の補助を昭和56年頃開始。	なし	なし

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定		
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	火葬場使用料の一部を町が負担し、誰にでも公平に訪れる死・葬祭にかかる費用の負担を軽減することは、快適な生活環境の維持に繋がる。	3		
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	火葬にかかる費用を町が一部負担することで、美しいまちを維持することができるため妥当である。			
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	葬儀場使用料を町が一部負担することは妥当である。			
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	必要とする人が、すべて火葬を行えているため成果向上の余地はない。	3		
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	対象は町民全員とすることは適切である。			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	使用料の一部を町が負担することは、適切である。			
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	自己負担額は、北筑昇華苑が使用者から徴収することになったので、業務の効率化は図られた。	3		
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	火葬する体数に応じて、助成額が増加する。削減の余地はない。			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	国・県からの補助はない。			
分析・検証結果			分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
			葬祭場の使用にあたり、住民の経済的負担を軽減するため、本事業に継続して取り組む。			
	有効性・効率性	いづれか0点	d	c	c	c
		いづれか1点	c	c	c	c
		合計4点	c	c	b	b
		合計5点	c	b	b	a
		合計6点	c	b	a	a
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A		
		維持	E	D			
		縮小	F				
		休廃止	G				
	D	成果・費用とも維持					
						コストの方向性(一般財源・関与職員数)	

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214101
事務事業名		桜丘下水処理施設跡地管理事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	04	下水処理費
根拠法令条例等			個別計画				
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 49 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度					

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 桜丘下水処理施設跡地	m2	6,173	6,173	6,173
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	適正に管理される				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 苦情や事故などが起こらないように維持管理を行う ・雑草除去、樹木剪定等委託契約事務				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	雑草除去、樹木剪定件数	件	目標	3	3	3	100.0%
				実績	3	3		
イ	成果	雑草、樹木の苦情件数	件	目標	0	0	0	
				実績	0	0		
ウ				目標				
				実績				
エ				目標				
				実績				
オ				目標				
				実績				
カ				目標				
				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	1,500	1,540	1,170	1,532	
		合計(A)	1,500	1,540	1,170	1,532	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	1,063	889	871	876	
		トータルコスト(A)+(B)	2,564	2,429	2,041	2,408	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.11	0.09	0.09	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 桜丘団地が開発され、昭和49年から開始。 平成23年3月から公共下水道に接続したため処理場を停止した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 平成23年度に桜丘終末処理場の解体工事終了し、広場として活用しているが、近隣との境界の樹木等の管理が必要である。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目		評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input type="checkbox"/> 貢献度高い		事業内容が施設跡地の維持管理であり、上位施策への貢献度は低い。	1			
		<input type="checkbox"/> 貢献度ふつう						
		<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度低い						
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input type="checkbox"/> 妥当である						
		<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がある		地元住民より、別の用地で使用したい意向があるが、跡地利用として地元との調整が図られれば、普通財産に移管し売却を検討すべきである。				
		<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い						
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である		町が所有する跡地であり、公共性が高い事業であるため、自治体関与は妥当である。				
		<input type="checkbox"/> 検討の余地がある						
		<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い						
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている		適正に管理しており、近隣等より苦情もないため期待する成果が得られている。	3			
		<input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い						
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である		施設跡地を適正に管理することが目的であるため、対象は適切である。				
		<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である		苦情や事故などが起こらないように、雑草除去、樹木剪定等を行っており適切である。				
		<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である		専門業者に委託して行っており効率的である。	3			
		<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である		管理を行うのに、必要最低限の予算であり、適切である。				
		<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である		活用できる国や県等の補助金はない。				
		<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある						
		<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
分析・検証結果	有効性・効率性		妥当性				分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
			0点	1点	2点	3点		
		いずれか0点	d	c	c	c	地元桜丘運営委員会の要望により跡地を子ども広場とし、使用管理運用をお願いしており、町としては、雑草の除草処理を行ったが跡地について地元と協議が整えば、普通財産に移管し売却を検討すべきである。	
		いずれか1点	c	c	c	c		
		合計4点	c	c	b	b		
		合計5点	c	b	b	a		
	合計6点	c	b	a	a			
	b	課題が少しあり業務の一部見直しが必要						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大	コストの方向性(一般財源・関与職員数)	
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A		
	維持	E	D				
	縮小	F					
	休廃止	G					
						<b>D</b> 成果・費用とも維持	

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報				<input checked="" type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業	事務事業コード	1214103	
事務事業名		動物愛護事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築		予算科目	会計 01	一般会計	
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する	款 04		衛生費		
				項 01		保健衛生費		
				目 07		環境衛生費		
根拠法令条例等		狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律			個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ			<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 25 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 飼い犬(犬の登録頭数)	頭	2,299	2,392	2,392
		㊦ 地域猫	頭	126	132	132
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・生活環境への被害が起こらない				
	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	狂犬病の発生を予防し、その蔓延を防止及び撲滅する取組等を行う ・犬の新規登録、注射済みの登録、鑑札と注射済票の発行、犬の転入出及び死亡届の受付、抑留された犬の公示 ・狂犬病集団予防注射の受付事務 ・獣医師会との委託契約事務 ・地域猫活動支援事業による登録団体に対する地域猫の不妊去勢手術券の交付 ・犬猫の糞尿による生活被害に伴う啓発				

(2) 指標達成状況

	種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	狂犬病集団予防注射頭数	↑	頭	目標	400	300	200	59.7%
					実績	191	179		
イ	活動	犬の新規登録数(転入含む)	↑	頭	目標	235	300	300	93.3%
					実績	320	280		
ウ	活動	犬の登録抹消数(転出、死亡、その他)	↑	頭	目標	200	200	200	93.5%
					実績	165	187		
エ	成果	狂犬病予防注射済頭数(個別、集団)	↑	頭	目標	1,400	1,400	1,400	97.3%
					実績	1,350	1,362		
オ	成果	狂犬病予防注射実施率(注射済頭数/登録頭数)	↑	%	目標	70.0	70.0	70.0	81.3%
					実績	58.7	56.9		
カ	成果	地域猫の不妊去勢実施率(手術頭数/地域猫の頭数)	↑	%	目標	75.0	75.0	75.0	107.1%
					実績	71.0	80.3		

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	202	1,260	420	420	
経費	財源	その他特定財源	2,456	2,239	3,355	3,250	
		一般財源	0	0	-360	0	
		合計(A)	2,658	3,499	3,415	3,670	3,499
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	7,827	7,879	8,115	7,090	
		トータルコスト(A)+(B)	10,485	11,378	11,531	10,760	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.81	0.80	0.84	0.73

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 狂犬病予防法に基づく事務である。 平成31年4月より志免町地域猫活動支援事業実施要綱を整備したもの。	②事務事業を取り巻く環境の変化 犬の登録頭数は年々減少していて、狂犬病予防注射を受ける割合は、横ばい状態である。 野良猫の無責任なえさやりによる生活環境被害が生じている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------



## 2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	総合計画において、生活環境被害を軽減させるため、野良猫への無責任なえさやりに対し、適切な指導及び不妊去勢手術を推進するとしており、快適な生活環境の維持につながり貢献度が高い。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	犬猫の糞尿による生活被害についての啓発や、野良猫への適切な指導及び不妊去勢手術を実施することは、町民の快適な生活環境の維持と清潔で美しいまちにつながり、生活環境被害の軽減を図るうえで、大変重要である。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	狂犬病予防法に基づき予防注射は義務化、また志免町地域猫活動支援事業実施要綱に基づき、生活環境被害を軽減させるため、野良猫への無責任なえさやりに対し、適切な指導及び不妊去勢手術券の交付を行っており、町で行う事業となっている。				
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	狂犬病予防法において、予防注射が義務となっているが、未接種の犬があり、再通知を送付するなど、成果の向上の余地がある。また野良猫への無責任なえさやりに対し、適切な指導及び不妊去勢手術を推進するとしているが、繁殖率が高く、追いついていないのが現状で成果の向上				
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	狂犬病予防法、志免町地域猫活動支援事業実施要綱に規定する対象であり、適切である。	2			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	狂犬病予防法、志免町地域猫活動支援事業実施要綱に規定する手段であり、適切である。				
	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で業務を行っており、内容についても熟知しており、業務の手順、内容については効率的である。				
効率性	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	狂犬病予防注射、地域猫活動支援事業を行う上で、必要なコストであり、削減の余地はない。	3			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	狂犬病予防登録等に関する手数料徴収条例に基づき、手数料を徴収している、また福岡県地域猫活動支援事業の補助金を活用しており財源の確保は適切である。				
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
			0点	1点	2点	3点	4月に3日間、町内の公民館を通じ狂犬病予防注射を実施した。野良猫への無責任な餌やりに関しては、直接指導や助言(室内飼、地域猫への移行等)をはじめ、広報紙、環境監視作業員による巡回広報等により啓発を行った。また併せて『猫除けセンサー』の貸出を行い被害軽減を図った。地域猫活動団体等に対しては手術券等を交付し、活動団体により、不妊去勢手術、ワクチン接種、ウイルス検査を実施し、生活環境被害のための取組を行った。
	有効性・効率性	いづれか0点	d	c	c	c	
		いづれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である					

## 3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A		
		維持	E	D			
		縮小	F				
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報 ☐ 06年度 実施計画事業

☐ 総合戦略該当事業

事務事業コード 1214104

事務事業名		環境調査事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計 01	一般会計	
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款 04	衛生費	
					項 01	保健衛生費	
					目 08	公害対策費	
	根拠法令条例等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律		個別計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 7 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 対象河川調査箇所(宇美川、坂瀬川、井野川)	箇所	9	9	9
		㊦ 不燃物埋立跡地周辺調査地点(水位測定、地下水、水質、発生ガス)	地点	24	24	24
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	汚染状況等がないか確認される				
		不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、廃棄物由来汚水の浸透、浸出水による公共用水域への影響を把握する ・不燃物埋立跡地周辺の調査(年4回、水位測定12地点、地下水水質調査6地点、河川水水質調査2地点、発生ガス調査4地点) ・河川水質調査(年4回、宇美川6箇所、坂瀬川2箇所、井野川1箇所)				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動					

(2) 指標達成状況

	種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	調査回数(河川調査、不燃物埋立跡地周辺調査)	↑	回	目標	4	4	4	100.0%
					実績	4	4	4	
イ	成果	汚染地点数(河川調査、不燃物埋立跡地周辺調査)	↓	箇所	目標	0	0	0	
					実績	0	0	0	
ウ					目標				
					実績				
エ					目標				
					実績				
オ					目標				
					実績				
カ					目標				
					実績				

(3) 総事業費の推移

		財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	1,081	1,328	1,259	1,328	
		合計(A)	1,081	1,328	1,259	1,328	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		968	1,181	1,253	1,356	
	トータルコスト(A) + (B)		2,048	2,509	2,512	2,684	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.10	0.12	0.13	0.14	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ	②事務事業を取り巻く環境の変化	③事務事業に対する関係者からの意見・要望
・平成7年9月に焼却灰等の埋め立てが終了、その後、遮水工事を実施した。汚染水の浸出状況を把握するために始められた。 ・平成16年5月、井尻粕屋線が新屋敷から粕屋町の扇橋までの間が開通したことにより、交通量の増大で大気汚染調査を実施したものである。	なし	なし

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、廃棄物由来汚水の浸透、浸出水による公共用水域への影響を図る目的に水質検査を実施し、汚点箇所がないことは、上位施策目指す姿の快適な生活環境の維持につながり、貢献度は高い。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、汚染状況等がないか確認することが必要である。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づくものであるため、自治体で行うものとなっている。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い					
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い					
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	汚染状態は確認されておらず、期待する成果が得られている。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、対象河川調査箇所と不燃物埋立跡地周辺調査地点を対象とすることは、汚染状況等がないか確認を行う必要があり適切である。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、汚染状況等がないか確認を行うために、不燃物埋立跡地周辺の水質調査等は最も有効な手段である。	3			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
効率性	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	専門業者に水質調査等を委託しており、業務手順、内容については、効率的である。 不燃物埋立跡地周辺の調査と河川水質調査に必要な最低限なコストとなっており、適切である。 活用できる国や県等の補助金はない。	3			
分析・検証結果	有効性・効率性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など) 不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、水質検査等を実施した。汚水地点は確認されておらず、環境保全に寄与した。また、令和5年度は大気汚染に関する相談・苦情・要望はなかった。	
		0点	1点	2点	3点		
		いずれか0点	d	c	c		c
		いずれか1点	c	c	c		c
		合計4点	c	c	b		b
		合計5点	c	b	b		a
	合計6点	c	b	a	a		
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				
						コストの方向性(一般財源・関与職員数)	



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報 ☐ 06年度 実施計画事業

☐ 総合戦略該当事業

事務事業コード 1214108

事務事業名		町内清掃事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
	根拠法令条例等				個別計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返    不明    年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～    年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,342
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・自分たちの手で町をきれいにする意識が向上する				
		町民自らの手によってきれいな街にする意識向上を図るため、町内一斉清掃を行う(春と秋の年2回) ・ゴミ集積場の提供、回収業者の手配				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動					

(2) 指標達成状況

	種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	町内一斉清掃実施数	↑	回	目標 2	2	2	100.0%
					実績 2	2	2	
イ	成果	町内一斉清掃で回収したごみの搬入台数	↑	台	目標 330	330	350	97.0%
					実績 339	320	320	
ウ	成果	環境美化活動(地域清掃など)に参加した人の割合【町民意識調査】	↑	%	目標 31.6	31.6	31.6	86.4%
					実績 28.6	27.3	27.3	
エ					目標			
					実績			
オ					目標			
					実績			
カ					目標			
					実績			

(3) 総事業費の推移

		財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	2,987	4,015	3,145	4,018	
		合計(A)	2,987	4,015	3,145	4,018	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費【按分】(B)		4,541	5,809	5,693	5,051	
	トータルコスト(A) + (B)		7,528	9,824	8,839	9,069	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.47	0.59	0.59	0.52	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 自分たちが住む町は自分たちできれいにするように意識向上が目的で開始された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 地域によっては、高齢化が進み作業が負担になってきている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 高齢化が進んでいる町内会では、不燃物選別場跡地への収集運搬が難しくなっているとの声がある。
---	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定				
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	自分たちの手で町をきれいにする意識が向上することは、環境美化や環境問題への高い意識をもっていることになり、快適な生活環境の維持と清潔で美しいまちにつながり、総合計画の目指す姿に直結する。	3				
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画において、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させるとしており、意図は適切である。					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	第6次総合計画において、町が取り組む内容として、町内一斉清掃により、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させることとしている。					
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	春・秋の一斉清掃を、予定どおり開催し、期待する成果が得られた。					
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内一斉清掃は町民全体を対象にしていおり、町民を対象にすることは適切である。	3				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	日にちを設定し、町民みんなで一斉に清掃を行うことが、環境美化意識向上に寄与するため。					
	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で行っており、業務手順、内容については、効率的である。					
効率性	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内一斉清掃を実施後に草、泥、木などの処理を行うため必要なコストであり、削減の余地はない。	3				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国や県等の補助金はない					
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など) 町民だけではなく、企業にも声掛けを行い、町内一斉清掃を実施した。今後も自分たちのまちは自分たいてきれいにするという、環境美化に対する意識を向上させたい。			
			0点	1点			2点	3点
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c			c	c
		いずれか1点	c	c			c	c
		合計4点	c	c			b	b
		合計5点	c	b			b	a
		合計6点	c	b	a	a		
a		業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A		
	維持	E	D				
	縮小	F				コストの方向性(一般財源・関与職員数)	
	休廃止	G					
		D	成果・費用とも維持				

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214109
事務事業名		生活環境監視事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
根拠法令条例等			個別計画				
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 13 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,342
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守る				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 不法投棄やごみ分別、ペットの飼い方などの監視、指導及び啓発を行う ・環境監視員の配置(2名) 福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所、粕屋警察署、糟屋地区1市7町で構成される「糟屋地区廃棄物不法処理防止連絡協議会」に参画する ・会議への参加				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	環境監視員配置数	人	目標 2	2	2	100.0%
				実績 2	2	2	
イ	活動	環境監視実施日数	日	目標 243	243	242	100.0%
				実績 243	243	242	
ウ	成果	不法投棄の回収件数	件	目標 150	150	150	62.0%
				実績 88	93	93	
エ	成果	不法投棄の通報対応率(回収件数/通報件数)	%	目標 100.0	100.0	100.0	100.0%
				実績 100.0	100.0	100.0	
オ	活動	協議会出席回数	回	目標 1	1	1	100.0%
				実績 1	1	1	
カ	成果	協議会による不法投棄パトロール実施回数	回	目標 30	30	30	100.0%
				実績 30	30	30	

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3,454	4,401	4,773	5,008	
		合計(A)	3,454	4,401	4,773	5,008	
		(内 会計年度任用職員人件費)	(3,454)	(4,401)	(4,773)	(5,008)	
		正職員人件費[按分](B)	2,318	2,265	2,316	2,616	
		トータルコスト(A)+(B)	5,773	6,666	7,089	7,624	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.24	0.23	0.24	0.27

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ・職員の減で事務量に対する職員の負担が増し、事務処理に影響をきたし始めたため、平成13年度から本事業を個人委託し開始した。 ・粕屋地区廃棄物連絡協議会による不法投棄パトロールを行っている。	②事務事業を取り巻く環境の変化 ・ここ数年、野良猫に対する、無責任なえさやりについての苦情が多数寄せられるようになった。また不法投棄、野焼きなど生活環境被害が後を絶たない。 ・廃掃法により事業者などに廃棄物の不法処理・管理を指導している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 ・野良猫に対する、無責任なえさやりについての苦情が多数町民から寄せられている。
---	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定		
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守ってもらうために、不法投棄の回収や、パトロールを行うことは清潔で美しいまちにつながり、上位施策の貢献度は高い。	3		
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画の町が取り組むべきことで環境監視員を活用した啓発を行うこととしており、その趣旨に沿っている。			
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、動物の愛護及び管理に関する法律に基づき町には、啓発など必要な措置を行う必要がある。			
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	環境監視作業員が、不法投棄のパトロールをしており、苦情等について、素早く対応が出来ている。	3		
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別やペットのマナーなど町民全体に係ることになり、町民を対象にすることは適切である。			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置することは、ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守ることになり、有効な手段である。			
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置することで効率的に監視、指導、啓発を行える。	3		
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置する最低限の必要なコストであり、削減する余地はない。			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。			
分析・検証結果			分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
			環境監視作業員を効果的に活用することで、不法投棄、野焼き、ペットのふん害など生活環境に関する問題に迅速に対応ができ、啓発や指導を行った。			
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c
		いずれか1点	c	c	c	c
		合計4点	c	c	b	b
		合計5点	c	b	b	a
		合計6点	c	b	a	a
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
							コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214110
事務事業名		焼却場跡地周辺環境整備事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
根拠法令条例等			個別計画				
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input type="checkbox"/> 単年度繰返		年度より開始	
				<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		H 25 年度～ R 9 年度	

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 焼却場跡地周辺町内会	団体	7	7	7
		㊧				
		㊨				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	環境整備が行われる				
		志免町焼却場跡地整備委員会で承認された周辺地域の環境整備を推進するための取組を行う ・設置された4公民館の太陽光発電システムの余剰電力料の受入と支払い事務				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動					

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	売電契約件数	件	目標	4	4	4	100.0%
				実績	4	4		
イ	活動	売電量	kwh	目標	45,000	45,000	45,000	83.8%
				実績	40,818	37,709		
ウ	成果	町内会還元金額	千円	目標	1,500	1,500	1,500	75.5%
				実績	1,120	1,132		
エ				目標				
				実績				
オ				目標				
				実績				
カ				目標				
				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	1,116	1,548	1,132	1,548	
		一般財源	0	0	-4	0	
		合計(A)	1,116	1,548	1,128	1,548	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	191	195	191	288	
		トータルコスト(A)+(B)	1,307	1,743	1,319	1,836	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.02	0.02	0.02	0.03	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成8年4月13日に締結された協定書に基づき、志免町焼却場跡地整備委員会を設置。	②事務事業を取り巻く環境の変化 委員会より焼却場跡地の周辺整備として、防犯灯LED取替や太陽光発電の設置及び余剰電力の有効利用について要望があった。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 焼却場跡地の周辺整備を行った町内会から好意的意見を頂いた。
--	---	---



2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定				
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	焼却場跡地周辺地域を整備したことにより、住みよい住環境の保全ができており上位施策の貢献度は高い。	3				
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	却場跡地周辺地域を整備されることは、焼却場跡地周辺町内会の住みよい住環境の保全ができており、町の目指す快適な生活環境の維持につながり、妥当である。					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	焼却場跡地周辺整備であり、町が主体で取り組む内容である。					
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	志免町焼却場跡地整備委員会で、整備方針に沿った環境整備が行われている。	3				
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	この事業は周辺環境を整備する事業であるため、焼却場跡地周辺町内会を対象とすることは適切である。					
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	この事業は周辺環境を整備する事業であるため、焼却場跡地周辺町内会を対象とすることは適切である。					
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最小限の職員で対応しており、これ以上見直しの余地はない。	3				
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	公民館の太陽光発電システムの余剰電力料の受入が特別財源となっており、額をそのまま対象公民館へ還元金という。また、その他のコストについても事務執行する人件費のみであり、これ以上削減の余地はない。					
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	余剰電力料を特別財源として受け入れている。					
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など) 4公民館に設置している、太陽光発電システムの余剰電力料の受入を行い、周辺6町内会に分配を行った。			
			0点	1点			2点	3点
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c			c	c
		いずれか1点	c	c			c	c
		合計4点	c	c			b	b
		合計5点	c	b			b	a
			合計6点	c			b	a
a		業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)			
		皆減	縮小	維持	拡大				
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A			
		維持		E	D				
		縮小		F					コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		休廃止	G						
	D		成果・費用とも維持						

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214112
事務事業名		空き地等草刈事業		担当課	生活安全課
担当係		生活環境係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する	項目	款
	根拠法令条例等			個別計画	項
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 10 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度				

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		⑦ 空き地等の雑草、木の繁茂による苦情があった土地	件	30	22	30
		⑧				
		⑨				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	適正に管理される				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 地域からの苦情が出た場合、条例に基づいて土地所有者または管理者に適正に管理するよう依頼を行う ・苦情連絡受付、現場確認、土地所有者確認、土地所有者へ適正管理依頼 ・土地所有者から草刈業者等斡旋の依頼がある場合は、業者を斡旋				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	草刈等依頼件数	件	目標 40	40	40	145.0%
				実績 30	22		
イ	成果	草刈等管理済件数	件	目標 35	35	35	57.1%
				実績 28	20		
ウ	成果	管理対応率(管理済件数/依頼件数)	%	目標 90.0	90.0	90.0	101.1%
				実績 93.3	91.0		
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	経	費					
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
	財源	その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	0	
		合計(A)	0	0	0	0	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	1,936	2,070	1,933	3,107	
		トータルコスト(A)+(B)	1,936	2,070	1,933	3,107	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.20	0.21	0.20	0.32

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和47年12月25日、志免町空き地の環境保全に関する条例を定め、実施している。	②事務事業を取り巻く環境の変化 少しずつではあるが、空き地等に戸建住宅が建設されている一方で、空き家が増加している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 近隣の住民、町内会長から空き家、空き地以外に、居住されている住宅の庭木についての苦情が増えている。
--	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	雑草の繁茂等により地域から苦情があった土地について、適正に管理されることは、周辺住民の快適な生活環境維持につながり、町の目指す姿につながる	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	志免町空き地の環境保全に関する条例により、空き地が適正に管理されることで、快適な生活環境の維持につながり、条例の目的に沿っている。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、空き地を適正に管理されるように指導及び助言を行う必要があるため。				
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、指導、助言及び勧告を実施しており、期待する成果が得られている。				
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、規定する対象のため適切である。	3			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、空き地を適正に管理されるように、指導や助言を行うこととなっている。				
	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で業務を行っており、業務手順については、効果効率的に実施している。				
効率性	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	所有者への指導、助言を行う人件費のみであり、必要なコストであり削減余地はない。	3			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国や県等の補助金はない。				
分析・検証結果			妥当性				分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など) 空き地の環境保全に関する条例に基づき指導、助言及び勧告を実施しているが、文書を送り続けることで対応をしていただくこともある。継続して対応が必要と思うが、費用面から実施できていない土地管理者があり、周辺住民の快適な生活環境の維持につながらないこともある。
			0点	1点	2点	3点	
	有効性・効率性	いづれか0点	d	c	c	c	
		いづれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止					
			G				
							コストの方向性(一般財源・関与職員数)
D		成果・費用とも維持					



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214201
事務事業名		宇美町・志免町衛生施設組合運営事業		担当課	生活安全課
担当係		生活環境係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計	01 一般会計
	取り組み方針	14-2	ごみを適切に収集して処理する	款	04 衛生費
				項	02 清掃費
				目	01 清掃総務費
根拠法令条例等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律、宇美町・志免町衛生施設組合規約		個別計画	
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 13 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度			

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ し尿、浄化槽汚泥(搬入量)	t	1,878	1,593	2,000
		㊦ 燃やせないごみ(搬入量)	t	858	823	900
		㊦ 粗大ごみ(搬入量)	t	169	170	180
②意図 (対象をどのような状態にしたいか)		・(し尿、浄化槽汚泥)適正に処理される ・(燃やせないごみ、粗大ごみ)適正にリサイクルされる				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	町内で発生したし尿、浄化槽汚泥を適正に処理する施設「宇美・志免浄化センター」と回収した粗大ごみ、燃やせないごみ(5種類:陶器・ガラス・その他、金属類、空き缶・空きびん、ペットボトル、プラスチック製容器包装類)を選別し、リサイクルする施設「宇美・志免リサイクルセンター」を宇美町と運営を行う ・業務委託契約、搬入協議				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	宇美・志免浄化センター受入可能日数	日	目標 241 実績 240	244 241	241	98.8%
イ	活動	宇美・志免リサイクルセンター受入可能日数	日	目標 306 実績 306	305 305	306	100.0%
ウ	活動	搬入協議回数	回	目標 4 実績 4	4 4	4	100.0%
エ	成果	し尿、浄化槽汚泥処理量	t	目標 2,000 実績 1,878	2,000 1,593	2,000	79.7%
オ	成果	リサイクルされたごみの量	t	目標 900 実績 835	900 823	900	91.4%
カ				目標 実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	197,157	194,284	181,213	198,207	
		合計(A)	197,157	194,284	181,213	198,207	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	2,510	3,446	3,282	2,520	
		トータルコスト(A)+(B)	199,667	197,730	184,495	200,727	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.26	0.35	0.34	0.26	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 廃棄物処理法により市町村の事務とすることになった。	②事務事業を取り巻く環境の変化 公共下水道の普及により処理量が減少してきている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	し尿が適正に処理され、燃やせないごみ等が適正にリサイクルされることは、町の公衆衛生、ごみ減量につながるため、上位施策の目指す姿に直結している。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	し尿が適正に処理され、燃やせないごみ等が適正にリサイクルされることは、総合計画で掲げているごみの減量化やリサイクル化を掲げており、取組方針に沿っている。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、自治体の責務となっており町の関与は妥当である。				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	し尿、浄化槽汚泥が適切に処理され、また燃やせないごみ・粗大ごみは適正にリサイクルされており、期待する成果が得られている。	3			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを対象とすることは適切である。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	宇美町・志免町衛生施設組合規約に基づき、し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを適切に共同処理することとなっている。				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを適切に処理することに関し、宇美町と共同経営することで、効率的に効果的に運営ができています。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	宇美町・志免町衛生施設組合規約で定められた、必要なコストであり削減の余地はない。				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。				
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
			0点	1点	2点	3点	し尿、浄化槽汚泥の適切な処理、燃やせないごみ、粗大ごみの適正にリサイクルされ、持続可能な循環型社会の構築のため、効率的、効果的に運営ができた。
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a		
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 06 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214203
事務事業名		ごみ処理事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-2	ごみを適切に収集して処理する		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	02	ごみ処理費
根拠法令条例等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律		個別計画	s		
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 29 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度	

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町内から出る可燃ごみ(搬入量)	t	10,391	10,107	10,107
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	適切に収集、運搬、処理される				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 町内から出るごみの収集、運搬、処理を行う ・可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに搬入し、処理 ・不燃ごみは宇美・志免リサイクルセンターに搬入 ・ごみ指定袋(燃やせるごみ、燃やせないごみ)の製作に係る契約事務、ごみ袋の販売 ・糟屋地区1市7町で開催される環境課長会と環境衛生主任者会への参画				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	燃やせるごみ収集日数	日	目標	306	306	307	100.0%
				実績	306	306		
イ	活動	燃やせないごみ収集日数	日	目標	282	282	283	100.0%
				実績	282	282		
ウ	成果	ごみ収集率(収集されたごみ量/適正に家庭等から出されたごみ量)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0%
				実績	100.0	100.0		
エ	成果	1tのごみ処理に係るコスト(年間経費/可燃ごみ量)※参考値	千円	目標	70	80	80	98.8%
				実績	80	81		
オ				目標				
				実績				
カ				目標				
				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	163,651	164,634	163,003	166,072	
		一般財源	680,338	767,277	652,376	788,919	
		合計(A)	843,989	931,911	815,379	954,991	931,911
		(内 会計年度任用職員人件費)	(2,294)	(2,830)	(3,181)	(3,200)	
		正職員人件費[按分](B)	9,667	13,297	12,842	13,785	
		トータルコスト(A)+(B)	853,656	945,208	828,221	968,776	
関与職員数(単位:人)			正職員	1.00	1.35	1.33	1.42

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ・昭和29年から清掃法により、ごみ収集は市町村の固有事務となった。 ・環境課長会等の開始した時期は不明だが、多様化している環境問題に対応するため設置されたものである。	②事務事業を取り巻く環境の変化 マンションや集合住宅の建設に伴う人口増加で、全体的なごみ量の増加に併せて処理費や収集委託料が増加している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	--	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定				
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	適切にごみを収集、運搬、処理されること、近隣市町と環境問題を共有し、その問題解決に取り組むことは、ごみの減量化や清潔で美しいまちにつながり、上位施策の目指す姿の実現に直結する。	3				
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画において、適切に収集、運搬、処理するとしている。					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、ごみを適切に処理することは、町の責務である。					
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	ごみの収集を安定的、継続的に実施しており期待する成果が得られている。					
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、町内から出る可燃ごみ(搬入量)とすることは適切である。	3				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、ごみの収集、運搬、処理を行うこととなっている。					
	効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内から出るごみの収集、運搬を行うことを許可制で実施しており、安定的に効率的に行っている。	3			
投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内から出るごみの収集、運搬、処理を行うことは安定的に継続的に実施する必要があり、投入コストは適切である。					
財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみを適切に収集、運搬、処理を行うにあたり、受益者負担として、ごみ袋の販売収入を財源としており適切である。					
分析・検証結果			妥当性				分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
			0点	1点	2点	3点	町内から出るごみの収集、運搬、処理を可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに搬入し、不燃ごみについては、宇美・志免リサイクルセンターに搬入し、安定的に継続的に行った。	
	いずれか0点		d	c	c	c		
	いずれか1点		c	c	c	c		
	合計4点		c	c	b	b		
	合計5点		c	b	b	a		
	合計6点		c	b	a	a		
a		業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)		
		皆減	縮小	維持	拡大	コストの方向性(一般財源・関与職員数)		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B			A
		維持		E	D			
		縮小		F				
		休廃止	G					
		D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報 ☐ 06年度 実施計画事業

☐ 総合戦略該当事業

事務事業コード 1214301

事務事業名		ごみ減量化推進事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築			予算科目	会計 01	一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める				款 04	衛生費
							項 02	清掃費
							目 01	清掃総務費
根拠法令条例等		資源の有効な利用の促進に関する法律			個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 06年度のみ			<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 25 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度～ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,242
		㊦				
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・ごみの減量やリサイクルの意識が向上する				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 ・ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行う ・広報やホームページでの啓発 ・ごみアプリの運用 ・4R活動の啓発、4R活動を行うリサイクル団体支援 ・生ごみ処理容器、ダンボールコンポスト等の販売窓口事務、補助金申請交付事務 ・子どもたちの環境作品展の開催				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	啓発回数(広報等)	回	目標 12	12	12	100.0%
				実績 12	12		
イ	活動	補助金交付数(生ごみ処理容器、ダンボールコンポスト、生ごみ処理器くたくん)	件	目標 20	20	20	30.0%
				実績 9	6		
ウ	成果	ごみアプリ登録者数	人	目標 12,000	13,000	14,000	102.8%
				実績 13,161	13,370		
エ	成果	町民1人当たりの1日の可燃ごみ排出量	g	目標 626	626	626	104.5%
				実績 614	598		
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

		財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	366	
		一般財源	786	952	816	818	
		合計(A)	786	952	816	1,184	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		3,775	6,112	5,215	5,819	
	トータルコスト(A) + (B)		4,561	7,064	6,031	7,003	
	関与職員数(単位:人)		正職員	0.39	0.62	0.54	0.60

(4) 環境変化・住民意見等

<b>①事務事業開始のきっかけ</b> ・平成4年から、廃食用油を排水しないことから廃油石鹼製造の支援し始めた。 ・平成8年から町内会の要望もあり、生ごみ処理容器の補助金交付を始めた。	<b>②事務事業を取り巻く環境の変化</b> ・生ごみ処理機が普及し、平成10年から生ごみ処理機の補助金交付を始めた。近年、集合住宅に住んでいる人でも手軽に生ごみを堆肥化できるダンボールコンポストを普及させるため、平成19年から補助金交付を始めた。生ごみ処理機は、平成15年から減少傾向であり、平成21年度から補助金を廃止した。 ・マンションや集合住宅の建設に伴う人口増加で、全体的なごみ量の増加に併せて処理費や収集委託料が増加している。	<b>③事務事業に対する関係者からの意見・要望</b> ・住民から「生ごみ処理機等の補助制度があり、助かる」という意見がある。 ・子どもたちの環境作品展を実施でアンケートを行った結果、来場者から好評をいただいた。
--	---	--



2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの減量化やリサイクル化などの環境負荷の少ない持続可能な循環型社会を構築する、上位施策の目指す姿の実現に直結する。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画に掲げるごみの減量化やリサイクル化などが進む環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の構築には、その意識の向上が必要である。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源の有効な利用の促進に関する法律において、再生資源の利用を促進するように努めることが規定されており自治体が行う内容である。				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	一人あたりのごみの量が昨年度より減少、更なるごみの減量や適正な分別のため、広報紙、ホームページ、ごみ分別アプリで周知啓発に努める。	3			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量やリサイクルの意識を向上させることについて、全町民を対象にしているため適切である。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行うことは有効な手段である。				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で対応しており、ごみの減量やリサイクルの意識を向上させるうえで、効率的に効果的に実施しており、業務手順については適切である。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行ううえで、必要なコストであり、削減余地はない。				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。				
分析・検証結果			分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)				
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	広報紙、ホームページ、ごみ分別アプリにてごみの減量及び資源化について周知啓発を行った。また子どもたちの環境作品展をシーメイトエントランスで行い、大変盛況となった	
		いずれか1点	c	c	c		c
		合計4点	c	c	b		b
		合計5点	c	b	b		a
		合計6点	c	b	a		a
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214303
事務事業名		資源回収推進事業		担当課	生活安全課
担当係		生活環境係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計	01 一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める	款	04 衛生費
				項	02 清掃費
				目	01 清掃総務費
根拠法令条例等		資源の有効な利用の促進に関する法律		個別計画	
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 62 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度			

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,342
		㊦ 集団資源回収を行う団体(登録団体)	団体	101	101	101
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・(町民)古紙[新聞、ダンボール、雑誌、チラシ]や古布などを資源回収に出すことができる ・(集団資源回収を行う団体)資源回収活動が活発に行われる				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行う ・資源回収に対する啓発 ・集団資源回収実施報告書の受領、集団資源回収団体への奨励金の交付				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	集団資源回収実施報告書受領数	件	目標 900	600	600	91.0%
				実績 567	546		
イ	活動	集団資源回収奨励補助金額	千円	目標 5,250	4,950	7,950	61.4%
				実績 3,232	3,038		
ウ	成果	集団資源回収実施団体数	団体	目標 95	70	70	75.7%
				実績 61	53		
エ	成果	集団資源回収実施団体率(実施団体数/登録団体数)	%	目標 63.0	63.0	63.0	83.3%
				実績 60.4	52.5		
オ	成果	古紙及び古布回収量(集団資源回収)	t	目標 822	822	822	60.2%
				実績 555	495		
カ	成果	古紙回収量(回収ボックス)	t	目標 -	-	90	
				実績 93	87		

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3,345	4,950	3,112	7,950	
		合計(A)	3,345	4,950	3,112	7,950	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	3,478	791	1,158	1,356	
		トータルコスト(A)+(B)	6,823	5,741	4,270	9,306	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.36	0.08	0.12	0.14

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ごみ減量を推進するために、昭和62年から開始した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 回収量については、年々減少傾向にある。その要因として考えられるのは、集団資源回収自体が大きな負担となっている成り手の問題(車出し、人集め、時間をさく等)や買い取り金額の低下に伴う、活動資金の低下による活動の萎縮、町内に設置している古紙回収ボックスの利用、ペーパーレスなど様々上げられる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 集団資源回収実施団体からは、古紙・古布の買取業者の買取単価が落ち込み、労力・手間・時間の割に収入が少なくなり、先行に不安を感じており、労力に見合っておらず、町からの奨励金を増額してほしいと要望が上がっている。
---	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定		
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの減量化と資源の有効利用は、上位施策にも取り組み内容として記載があり、上位施策の目指す姿に直結する。	3		
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源回収が活発に行われることは、ごみの減量化やリサイクル化につながり、総合計画に掲げるごみの減量化と資源の有効利用を図ることとなり、意図は適切である。			
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源有効利用促進法において、再生資源の利用を促進するように努めることが規定されており自治体が行うべき内容である。			
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	様々な要因(買取金の低下や団体活用の負担増による団体の萎縮、古紙回収ボックスの利用等)により、回収量が減少傾向にある。	2		
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	集団資源回収は登録団体にて行っており、この事業において、集団資源回収を行う団体を対象とすることは適切である。			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行うことは、有効な手段であるが、町からの奨励金が市場と見合っており、改定の余地がある。			
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	担当職員にて、集団資源回収団体の奨励金の交付事務を行っており、業務手順や見直し余地についてはなく、効率的に運用している。	2		
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行ううえで、必要なコストであり削減余地はない。それ以上に、奨励金を上げる必要がある。			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国や県等の補助金はない。			
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点	回収実施団体からは、集団資源回収にあたり、買い取り金額の低下、活動団体の負担の増加等に伴い、先行に不安を感じ、活動自体に意味があるのかと、懸念が生じている。活動者の活動意欲の低下につながると、集団資源回収の制度自体が成り立たず、燃やせるごみの増加、温室効果ガス排出量の増加、地域コミュニティの場の低下、環境教育の場等の喪失につながるため、町からの奨励金の増加等対策が必要と考え、志免町集団資源回収団体奨励金交付要綱を本年度改正し、令和7年4月分から奨励金の額を1キログラム当たり6円から12円に変更した。
	いずれか0点	d	c	c	c	
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	b 課題が少しあり業務の一部見直しが必要

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A		
		維持	E	D			
		縮小	F				
		休廃止	G				
							コストの方向性(一般財源・関与職員数)
						<b>D</b> 成果・費用とも維持	



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214306
事務事業名		地球温暖化対策事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
根拠法令条例等			個別計画				
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 R 5 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度	

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 町民	人	46,588	46,342	46,342
		㊦ 職員	人	216	219	220
		㊦				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	中期目標の2030年、2050年の脱炭素に向け、町民、職員の機運の醸成、意識の向上、行動変容を促す。				
		③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の改定及び職員への行動変容への促し</li> <li>・総合公園野球場のLED照明の導入</li> <li>・4R運動</li> <li>・環境教育</li> <li>・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づく町民事業所への行動変容の促し(のぼり、横断幕設置)</li> <li>・ECOチャレンジ応援事業の企画</li> </ul>				

(2) 指標達成状況

	種別	指標名	目指すべき方向性	単位		05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	町民、事業所に対する脱炭素情報配信	↑	回	目 標	1	1	1	100.0%
					実 績	1	1		
イ	活動	職員研修	↑	回	目 標	2	2	2	100.0%
					実 績	2	2		
ウ	成果	地球温暖化対策実行計画(区域施策編)における温室効果ガス総排出量(前年度未実績)	↓	t-CO <sub>2</sub>	目 標	-	-	179,131	
					実 績	-	-		
エ	成果	地球温暖化対策実行計画(事務事業編)における温室効果ガス総排出量(前年度未実績)	↓	t-CO <sub>2</sub>	目 標	2,092	2,071	2,050	119.3%
					実 績	2,477	1,671		
オ					目 標				
					実 績				
カ					目 標				
					実 績				

(3) 総事業費の推移

		財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債		0	0	0	0	
		財源 その他特定財源		7,148	2,683	833	25,117	
		一般財源		0	0	1,665	2,280	
		合計(A)		7,148	2,683	2,497	27,397	未定
		(内 会計年度任用職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)		8,029	10,046	10,144	10,870	
	トータルコスト(A) + (B)			15,177	12,729	12,642	38,267	
	関与職員数(単位:人)		正職員	0.83	1.02	1.05	1.12	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 令和2年10月の内閣総理大臣所信表明において、「2050年カーボンニュートラル」を宣言。また、地球温暖化対策推進法に基づき、志免町地球温暖化対策実行計画を策定したもの。	②事務事業を取り巻く環境の変化 近年、国内外で脱炭素化の動きが急速に加速。世界的に脱炭素がトレンドになりつつある。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 脱炭素に関してのアンケートを行った結果、地球温暖化対策を進めるうえで、資金の不足、ノウハウの不足等が課題となっている。また町に行ってほしい取組として、補助金等支援制度の充実、対策方法や効果的等の情報提供を求められている。
--	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	総合計画において、地球温暖化対策推進法に基づいた、温室効果ガス排出量削減のため、地球温暖化対策を行うこととしており、貢献度が高い。	3	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町民、職員の機運の醸成、意識の向上、行動変容を促すことは、脱炭素を行ううえで大変重要である。		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	地球温暖化対策推進法に基づき、町で、温室効果ガスの排出量の削減のための総合的かつ計画的な施策を実施することとなっている。		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	中期目標の2030年に向かって、志免町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づき、地域脱炭素の加速化を図る必要がある。	2	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	脱炭素を行うには、職員が率先して取り組み、町民に対し模範を示す必要がある。また町民1人1人の機運の醸成、意識の向上、行動変容が必要となり、適切である。		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	省エネ・再エネの取組のため適切だが、さらに推進していくため、専門的な知識やあらゆる主体と連携し、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であるため、補助金支援制度の創設や専門知識やノウハウをもつ民間事業者の活用が必要である。		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で行っており、業務手順、内容については、効率的であるが、今後業務が増加する見込みであり、関与職員の増加が必要である。	2	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	地球温暖化対策事業を行う上で、必要なコストであり、削減の余地はない。		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	志免町おうえん基金を活用しており、財源は適切である。		
分析・検証結果	有効性・効率性	分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
		町域をこえて脱炭素社会の実現を図るため、福岡市地球温暖化対策市民協議会が主体となる、ECOチャレンジ応援事業に参画し、町民が、電気やガスの使用量の削減など、身近な脱炭素の実施を促すため、交通系ICカードにECOポイントの付与を実施した。次に、町が脱炭素に関するアピールや模範を示すため、庁舎等に脱炭素に関するのぼり旗・懸垂幕等を設置した。次に、国の地球温暖化に係る政府実行計画の改定に伴い、志免町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の改定を行った。今後、中期目標の2030年、2050年の脱炭素に向け、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であるため、補助金支援制度の創設や専門知識やノウハウをもつ民間事業者の活用が必要であり、専任部署や専任職員が必要であると考え			
		b	課題が少しあり業務の一部見直しが必要		

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	志免町オリジナルのマイボトルを作製し、町民が気軽にマイボトル利用を始めてもらうきっかけとして、窓口販売や各種イベントでの配布などを行う。これにより、令和7年度に庁舎及びシーメイトに設置したウォーターサーバーの利用を広くPRするとともに、プラスチックごみ削減の意識付けを図ることができる。
今後の方向性	成果の方向性	拡大	C	B	A	
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		コストの方向性(一般財源・関与職員数)				マイボトルの購入費について一般財源の増額が必要である。
A		成果拡充・費用拡大				

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1314103
事務事業名		緑化推進事業		担当課	都市整備課
担当係		都市整備係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計	01 一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する	款	08 土木費
				項	05 都市計画費
				目	04 緑化推進費
根拠法令条例等			個別計画		
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度			

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		⑦ 町が管理する桜(公園、公共施設以外)	本	560	558	558
		①				
		②				
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・健全に管理される(桜の花が咲く)				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	公園や公共施設以外に植栽された桜(町花)の維持管理(剪定、消毒、周辺草刈)等を行う ・業務委託契約事務 ・桜ライトアップの実施				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	桜(町木)剪定数	本	目標 560 実績 560	558 558	558	100.0%
イ	活動	桜(町木)消毒本数	本	目標 0 実績 0	0 0	0	
ウ	活動	桜(町木)植栽数	本	目標 3 実績 0	3 0	3	
エ	活動	ライトアップ実施日数	日	目標 14 実績 14	14 14	14	100.0%
オ	成果	開花率(開花した桜/管理する桜)	%	目標 100 実績 100	100 100	100	100.0%
カ				目標 実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	経費	特定 国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	9,255	10,519	10,049	10,563	
		合計(A)	9,255	10,519	10,049	10,563	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	2,135	415	377	422	
		トータルコスト(A)+(B)	11,391	10,934	10,426	10,985	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.31	0.05	0.05	0.05	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 多くの桜の苗木が植樹され、それに伴い維持管理が必要なため。	②事務事業を取り巻く環境の変化 樹木の成長により暗がりが増えたり、枝葉が近隣の民家等に張り出している場所が増加してきた。また、植樹されて年数が経っており樹木が弱くなってきており枯れかけているものも見受けられる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 「落ち葉が雨どいに詰まるので枝葉を落として欲しい」「樹木を間引きして欲しい」など、近隣住民の方からの苦情や要望が増えている。
---	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	桜(町花)を健全に管理することで、花が咲き、美しいまちの実現に貢献している。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町が管理する桜が健全に管理されることで、総合計画に掲げる美しいまちの実現につながり、花見の時期に桜の花を楽しみたいというニーズがあり妥当である。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町の事業として植樹されており、町花でもあるため町が管理を行う必要がある。				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	剪定や消毒等の管理を行っており、期待する効果が得られている	3			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町が管理する桜を対象としているため適切である。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	定期的な剪定や消毒を行うことにより、健全な管理を行っている。				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	専門業者に業務委託を行うことで、最小の事務量で事業を実施している。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	消毒については発生した際のスポット対応としており、剪定に関しても必要最低限で実施しているため適切である				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	桜の維持管理に關しての補助等はないため、適切である。				
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
			0点	1点	2点	3点	樹木管理については、樹木管理委託業者と協議を行い最適な方法で管理を行った。また樹木の枯死により伐採を実施した。町内全域的に桜の枯込み等が見受けられるため、植替えなども検討する。
	有効性・効率性	いづれか0点	d	c	c	c	
		いづれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)		
		皆減	縮小	維持	拡大			
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B			A
		維持		E	D			
		縮小		F				
		休廃止	G					
			D 成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)	

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1314401
事務事業名		片峰山緑地保存事業		担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る		款	08	土木費
					項	05	都市計画費
					目	04	緑化推進費
根拠法令条例等		都市緑地法、志免町緑地保全と緑化推進に関する条例 及び施行規則、志免町緑地保全林地地区等保全事業補助金交付要綱		個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 59 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 緑地保全林地地区対象地	m2	43,627	43,627	43,627
		①				
		②				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・緑地が保全される				
		・緑地保全林地地区に指定して、緑地の保全と緑化の推進に要する費用の一部を補助する ・補助金申請の受付、支払				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動					

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金申請人数	人	目標 7	7	7	100.0%
				実績 7	7	7	
イ	活動	補助金額	千円	目標 423	423	423	100.0%
				実績 423	423	423	
ウ	成果	保全林地地区指定承諾[補助金交付]面積(民有地)	m2	目標 28,197	28,197	28,197	50.1%
				実績 14,120	14,120	14,120	
エ	成果	保全林地地区指定面積(町有地)	m2	目標 15,430	15,430	15,430	100.0%
				実績 15,430	15,430	15,430	
オ	成果	保全林地地区指定率(保全林指定面積/保全林地地区対象面積)	%	目標 100	100	100	67.7%
				実績 67.7	67.7	67.7	
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

		財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
事業費	経費	特定 国・県支出金、地方債		0	0	0	0	
		財源 その他特定財源		2	0	0	0	
		一般財源		862	891	878	924	
		合計(A)		864	891	878	924	891
		(内 会計年度任用職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)		2,065	509	462	1,360	
	トータルコスト(A) + (B)			2,929	1,400	1,340	2,284	
	関与職員数(単位:人)		正職員	0.30	0.06	0.06	0.16	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 都市化を目指した開発による緑地の減少を防ぐため、緑地の保全を行う。	②事務事業を取り巻く環境の変化 保全区域及び周辺地域については特に変わっていない。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	--	----------------------------



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

事務事業名 片峰山緑地保存事業

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	良好な自然環境を形成している緑地を、緑地保全林地区として指定することで、緑地の適正な保全と緑化の推進を図ることができ、町内の貴重な自然を守ることに貢献している	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地保全と緑化推進に関する条例に基づき行っているため適切である				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	都市緑地法、緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則、緑地保全林地区等保全事業補助金交付要綱に基づき行うため自治体が主体となることは妥当である				
	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	未指定の土地の地権者の承諾を得て、指定することにより成果向上出来る				
有効性	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	条例により町が指定した地区で、大規模な緑地であるため	2			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	保全を行う上で維持管理費用も発生するため補助金の交付を行うことが適切である				
	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	最低限の従事で取り組んでいるため、削減の余地はない。				
効率性	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	条例に基づいた金額のため適切	3			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる補助等がないため適切				
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
			0点	1点	2点	3点	未指定箇所の承諾を得ることが成果向上につながるが、対象地は個人のものであるため、状況を見ながら今後も、交渉等を行う
	いずれか0点		d	c	c	c	
	いずれか1点		c	c	c	c	
	合計4点		c	c	b	b	
	合計5点		c	b	b	a	
	合計6点		c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性			コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
			皆減	縮小	維持	拡大		
	成果の方向性	拡充		C	B	A		
		維持		E	D			
		縮小		F				
			休廃止	G			コストの方向性(一般財源・関与職員数)	
		D	成果・費用とも維持					

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1314402
事務事業名		緑地保全会支援事業		担当課	都市整備課
担当係		都市整備係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計	01 一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る	款	08 土木費
				項	05 都市計画費
				目	04 緑化推進費
根拠法令条例等		都市緑地法、志免町緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則		個別計画	
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 59 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度			

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		⑦ 緑地保全会	団体	4	4	4
		⑧				
		⑨				
②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・管理する緑地の保全が行いやすくなる					
③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	神社周辺等のまとまった緑地の保全のための費用の一部の補助を行う ・補助金申請受付、支払					

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金交付団体数	↑	団体	4	4	100.0%
				目標	4	4	
				実績	4	4	
イ	成果	補助金額	↑	千円	825	825	100.0%
				目標	825	825	
				実績	825	825	
ウ	成果	保全された緑地面積(補助金対象面積)	↑	m2	19,934	19,934	100.0%
				目標	19,934	19,934	
				実績	19,934	19,934	
エ							
				目標			
				実績			
オ							
				目標			
				実績			
カ							
				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経	財源	その他特定財源	0	0	0	0	
費		一般財源	825	825	825	825	
		合計(A)	825	825	825	825	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	833	415	377	1,278	
		トータルコスト(A)+(B)	1,658	1,240	1,202	2,103	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.12	0.05	0.05	0.15	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 都市化を目指した開発による緑地の減少を防ぐため、緑地の保全を行う。 志免町には、古来より神社が4箇所に存在し、地域の方々や町民の憩いの場所として利用されており、この神社内の緑地保全と環境整備を行うための一部負担金として、昭和59年より助成事業を行っている。	②事務事業を取り巻く環境の変化 地域の方々や町民の憩いの場所として利用されており、緑地保全と環境整備を行ってらっている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	神社周辺の緑地が保全されることで総合計画の貴重な自然環境を守る事につながる	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地保全と緑化推進委関する条例に基づき緑地の保全を行っている為適切である				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地の適正管理を行ってもらうことが、総合計画の貴重な自然環境を守ることにつながる				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	成果は順調に推移しており、期待する効果が得られている	3			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	緑地保全を実施している団体を対象にしており、適切である。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	緑地保全のための補助金交付によって緑地管理を行っているため適切である				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	職員数は必要最小限の人数で取り組んでいる為適切である	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金の減額は適正な緑地管理を行えなくなるため適切である				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる補助等はないため適切である				
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
			0点	1点	2点	3点	今後も継続して保全支援をしていきたい
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	a		業務の内容は適切である				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)



事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1314403
事務事業名		河川美化活動団体支援事業		担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る		款	08	土木費
					項	03	河川費
					目	01	河川総務費
根拠法令条例等				個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 15 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度					

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		㊦ 河川美化活動団体(クリーンupうみ川実行委員会)	団体	1	1	1
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・活発な活動が行われる				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	宇美川河川周辺の美化活動に対して、補助金の交付等の支援を行う ・広報紙掲載による広報活動支援 ・補助金交付事務 ・職員の活動への参加				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	広報掲載回数	回	目標 1	1	1	100.0%
				実績 1	1	1	
イ	活動	補助金申請件数	件	目標 1	1	1	100.0%
				実績 1	1	1	
ウ	活動	町職員の活動参加人数	人	目標 10	10	2	20.0%
				実績 2	2	2	
エ	成果	河川美化活動実施日数	日	目標 1	1	1	100.0%
				実績 1	1	1	
オ	成果	補助金額	千円	目標 50	50	50	100.0%
				実績 50	50	50	
カ	成果	町民の活動参加人数	人	目標 300	300	50	16.7%
				実績 35	50	50	

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	経費	特定 国・県支出金、地方債 財源 その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	50	52	0	52	
		合計(A)	50	52	0	52	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	70	1,259	1,142	1,278	
		トータルコスト(A)+(B)	120	1,311	1,142	1,330	
	関与職員数(単位:人)		0.01	0.15	0.15	0.15	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成12年度に町民による「クリーンupうみ川実行委員会」が結成され、河川美化に関する活動が進められる中、平成14年度に町に対して活動補助金の要望があり、平成15年度より補助金を交付している。	②事務事業を取り巻く環境の変化 開始当初と比べ、河川美化活動を通じ協働意識が向上し、さらには、参加者を含む住民の河川愛護意識が感じられる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 実行委員会からは、「住民、町及び建設協会の協力で、この活動が成り立っている。」との意見がある。
---	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	河川美化団体の活動に参加する町民が増えることで環境美化・環境問題を考えるきっかけとなり、清潔で美しいまちづくりへつながる。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	河川美化活動を活発化させることで、河川愛護の啓発活動となり、自然環境の保全につながっているため。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町が主体的に支援することで、参加者を向上させ、河川愛護意識の啓発及び自然環境の保全意識を向上させることができるため。				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	ボランティア団体を積極的にバックアップし、広報等の媒体を利用したPR活動に協力することで、河川美化活動への参加者増加に期待できるため。	2			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	志免町内にて活動している河川美化活動団体が1団体であるため。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	最も幅広く周知を行うことができる広報等のPR活動に協力しているため。				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	例年滞りなく事業を実施できているため。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	団体の活動に係る最低限の予算であるため適切である。				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町として活用できる補助金等はなし。				
分析・検証結果			分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)				
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	河川内の植生の繁茂等により、河川内での作業の安全性に不安が残るため、予定していた河川美化活動が規模縮小での開催となった。今後は河川管理者である福岡県との連携や、実施箇所の検討が必要である。本事業は河川美化活動を通じて、自然環境を保全し、住民の河川愛護意識の向上を目的として実施しているものであるため、引き続き「クリーンupうみ川実行委員会」を積極的に支援していく。	
		いずれか1点	c	c	c		
		合計4点	c	c	b		b
		合計5点	c	b	b		a
		合計6点	c	b	a		a
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 06 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 06年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1314404
事務事業名		森林環境譲与税活用事業		担当課	都市整備課
担当係		農業振興係			
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計	01 一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る	款	06 農林水産業費
				項	02 林業費
				目	01 林業総務費
根拠法令条例等		森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律		個別計画	志免町森林環境譲与税活用計画
実施期間		<input type="checkbox"/> 06年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 R 元 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度			

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)
		⑦ 森林環境譲与税基金	千円	6,580	8,564	7,720
		①				
		②				
事業内容	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・木材利用のために、積極的に基金が活用される。				
	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	志免町森林環境譲与税活用計画に基づき、木製品の導入又は公共施設の木造化等を促進する。				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	05年度	06年度	07年度 (見込)	達成率
ア	活動	一般会計繰入金額	千円	目標 6,500	6,800	6,200	58.4%
				実績 1,550	3,972		
イ	成果	木製品等購入件数	件	目標 0	1	1	100.0%
				実績 0	1		
ウ	成果	公共施設等の木造化等件数	件	目標 2	2	1	100.0%
				実績 1	2		
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	06年度 (決算値)	07年度 (当初予算)	08年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経費	財源	その他特定財源	0	2,800	1,558	2,200	
		一般財源	2	7	2	7	
		合計(A)	2	2,807	1,560	2,207	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	2,276	1,513	1,288	1,958	
		トータルコスト(A)+(B)	2,278	4,320	2,848	4,165	
関与職員数(単位:人)			正職員	0.33	0.18	0.17	0.23

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ パリ協定の枠組みにおけるわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るための地方財源を安定的に確保し、森林関連法令の見直しを踏まえ平成31年度税制改正において、森林環境譲与税が創設された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律及び森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律施行規則が平成31年3月に制定された。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 議会及び関係団体からの町の用途についての、要望及び問い合わせがある。
--	--	--

事務事業評価表（事業実施年度：令和 06 年度）

事務事業名 森林環境譲与税活用事業

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定				
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	森林環境譲与税は森林整備及びその促進に関する費用に充てられており、貴重な自然環境を守ることに繋がる。	3				
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	法律に基づいた事業であり、法律の使途にあった事業を実施しているため、適切である。					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	法律に基づいた事業であり、自治体が行うことが妥当である。					
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	木材利用の推進のために公共施設の木造化や木製品の購入しており、目標は達成している。	3				
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	森林環境譲与税の使途にあった事業のみを対象としており変更の余地はない。					
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	森林環境譲与税を活用するために必要な手段であり、適切である。					
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最低限の人員で行っており、削減余地がない。	3				
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	森林環境譲与税の使途については、法令で定められているほか、事後公表も義務化されており、適正な執行となっているため削減余地がない。					
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	森林環境譲与税を使用しているため、適切である。					
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(06年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
			0点	1点	2点	3点	公民館改修工事並びに消防団格納庫新築工事の木工事部分に対して森林環境譲与税を活用した。毎年度継続する事業なので、計画的な事業実施が必要である。 また、令和7年度より開始する新生児木製記念品贈呈事業に使用する木製スプーンを、令和6年度より購入している。数少ない啓発の機会であるため、有効に活用する。	
	有効性・効率性	いづれか0点	d	c	c	c		
		いづれか1点	c	c	c	c		
		合計4点	c	c	b	b		
		合計5点	c	b	b	a		
			合計6点	c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに08年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)